

AET と日本の英語教育の「共存共栄」

Direct Exposure to Foreigners as Effective Language Learning

Brandon Lambert

この7カ月間、私は足利の外国人英語指導助手として、日本の中学校での英語教育の目標はどうか考えました。そして、自分の英語教育に対する考えだけでなく、文部省の英語教育の目標についても勉強しました。そこで、今までに感じたことを述べてみたいと思います。まだ日本語は上手ではありませんが、できるだけ日本語で論文を書くことにチャレンジしてみたいと思います。

21世紀が近づき、英語は急速に国際語として発展しつつあります。そして、世界中では多くの国で第一外国語として英語をとっています。文部省は、中学校で外国語を勉強することを要求していますが、日本の場合、全国のほとんどの中学校で英語を勉強しています。日本とヨーロッパなどの社会では英語の重大さが違うと思います。

いくつかの要素がありますが、日本で英語を教えることは、他の国で教えるよりやりがいがあると思います。

まず、第1に、日本語と英語は似ていることが少ないことです。日本語はローマ字を使わないので、英語を勉強している日本人にとって、発音することと、読むことは難しいと思います。そのために日本の生徒は英語の文字が読めるように英単語の上に振り仮名を書きがちです。これでは正しい発音に慣れることはできません。

第2に、文化と言葉はたいへん縁が深いものです。言うまでもなく、欧米に比べて日本の文化は非常に違います。私は自分で日本語の勉強をするとともに、次第に言葉と文化の関係が分かってきました。たとえば、よく日本人は私に「いただきますは英語で何と言いますか」をききます。答えるときは「べつに、いただきますという言葉はありません」と説明します。アメリカ人も食事をいただく時有り難いと思わない訳ではないと思いますが、これが日米の文化の違いの一例です。

それぞれの国にはそれぞれの文化があり、それぞれに違いもあります。どの国の外国語でも流暢に話せるようになるには、それぞれの文化を経験しなければ、それは無理なことだと思います。

日本の数学や科学の教育は世界の中でも最高といわれていますが、英語教育についても同じでしょうか、必ずしもそうとは言えないと思います。日本の学習法は理解よりも知識や計算技能の向上に集中しがちといわれています。外国語は教科書を読むことと暗記で覚えるとは忘れやすいものです。そこで、もし普段の生活で2つか3つでも良いから英語で会話するようになったらすぐ覚えられると思います。しかし、残念ながら日本の生徒達は入学試験に合格するために、よく文法ばかり勉強しています。

私は前に外国語にチャレンジして外国語を上達させようと言いましたが、英語が上手になるためには外国に住まなければならないかという、全然そうではありません。AET (Assistant English Teacher) を通して、生徒は全国どこでも留学することと同じ経験ができるのです。

日本語で述べるのが難しいので、これより英語で述べさせていただきます。

AETs such as myself are Japan's answer to bringing English to life within the education system. By having a native speaker of English inside the classroom, Japanese children have the opportunity to interactively make English a part of their daily lives.

However, in my opinion, the AET could be used in a much larger and effective capacity. It is not uncommon for me to be present inside a junior high English classroom where as much as 75% of the class is conducted in Japanese.

Before beginning my present teaching position, I felt that my experiences of living in Japan and studying Japanese would serve as a valuable asset for my teaching of English in Ashikaga's public schools. I now realize that although speaking some Japanese helps in my daily and social life, Japanese should virtually never be spoken while I am in the classroom.

About one month ago I had an experience that rejuvenated my hopes of overcoming some of the challenges of teaching English in Japan. While enjoying some beverages at a small restaurant in Ashikaga, I had a conversation with a man sitting near me. At the end of our conversation, he asked me in Japanese "Don't you have to speak Japanese to teach English in Japan?" This comment not only embarrassed me but made me think about the best way for anyone to learn a foreign language. When a person tries to perfect any skill, he or she often aims to train or learn that particular skill in the same manner as those who have become experts or professionals. AETs are, in a sense, Japan's experts on English. Native speakers of English learn English from birth. We are not taught English via another language.

I, therefore, encourage every teacher of English (native speaker or Japanese) to ensure that English is taught in the most effective and practical way, by using only English. The results will most likely bring about much confusion, misunderstanding, and strenuous efforts toward communication. Just like when I was a baby!